

伊藤製作所・澄夫会長の功績たたえる 紺綬褒章、四日市市が伝達式

2026-10-24 北勢, 地域, 政治



【伝達式に出席した（左から）廣瀬教育長、伊藤氏、稲毛弥生教育監＝四日市市広永町で】

【四日市】四日市市は23日、紺綬褒章の伝達式を同市広永町の伊藤製作所シアタールームで開いた。廣瀬琢也教育長が同社会長の伊藤澄夫氏(84)に章記と飾版（しょくはん）を手渡し、功績をたたえた。

紺綬褒章は地方公共団体などへ1千万円以上の寄付をした企業・団体、500万円以上の寄付をした個人が対象で、既に褒章を授与されている伊藤氏が同種の褒章を授与されることとなったため、飾版が贈られた。伊藤氏への褒章授与は3回目。

褒章は国から授与されるが、市が寄付を受けた場合は、市から受章者へ伝達される。市から県を通して国へ候補者を推薦し、閣議決定を経た上、裁可を得て発令される。

伊藤氏は令和6年7月と同7年7月に四日市市立小中学校（59校）図書館の図書購入費として計531万円を市に寄付。市によると、全体で約2500冊が各学校に整備されたという。

廣瀬教育長は「継続的に行政に多大なるご貢献をいただいている。読書の振興のためにご寄付をいただき、有効に活用させていただいた。子どもたちの豊かな心を育むため、多大なるご貢献を賜り、感謝申し上げます。3回目の受章、おめでとうございます」と祝辞。

伊藤氏は「自分が若い時には仕事に一生懸命であり本を読まなかったが、人生半ば過ぎてから読み始めてプラスになったし、自分が本を書けたのも本を読んだから。若い時から本を読まないの意味がないし、表紙がぐちゃぐちゃの本はなかなか子どもも借りられないので、寄付を始めた」とした上で「日本の子どもたちはしっかり自立していて海外の旅行者から評判が良く、日本の教育が世界から評価されている。本を読んでもらってもっと幅広い良い大人になってほしい。若い子に次の時代に頑張ってもらいたい」と話していた。